危機管理マニュアル

**総論編**



**東京都高等学校体育連盟**

はじめに

運動部活動や競技会中の事故や怪我は、各競技、種目における活動の特性や使用器具、用具などによっても様々です。それらの事故や怪我が起こるきっかけ、要因は一体どこに潜んでいるのか、どういった環境で発生してしまうのか、それらを事前に把握し、予測しておくことは大変重要であり、それが、事故や怪我を未然に防ぐことに繋がっていくものと考えます。

そのため、各専門部において、各競技の特性を踏まえた事故発生の要因を知り、事故防止に対する安全対策を検討し、共有しておくことが大切であり、万が一事故が発生してしまったときにも、緊急連絡体制を明確に整備しておくことで、迅速かつ適切な事故対応へと繋がり、被害を最小限に抑えることができると考えます。

そこで、我々高体連では関係競技団体と連携を図りながら、日常の運動部活動や競技会における事故防止と安全対策について、緊急時に備えた事前確認から緊急時の基本的な対応等を、専門部ごとに、様々な角度から事故防止対策を検討し、危機管理マニュアルとしてまとめました。

各専門部に係わるすべての関係者が、安全確保と危機管理への高い意識と、事故や怪我防止のための必要な知識や技能を持つことで、参加するすべての生徒が安全に、そして自信を持って活動に専念できる体制を整えていきます。

本連盟及び加盟各校において、本マニュアルを適切に活用して、すべての活動の前提に「安全」を位置付け、充実した運動部活動を展開していけるよう努力して参ります。今後とも、競技に携わるすべての皆様の御協力と御支援をお願いいたします。

末尾となりましたが、作成にあたり御協力いただいた東京都教育委員会に深く感謝いたします。

東京都高等学校体育連盟会長

目 次

はじめに 東京都高等学校体育連盟会長

第１章 競技会における事故防止と安全対策

#### Ⅰ 競技会運営に当たっての注意事項 1

１ 緊急時に備えた事前確認事項

２ 運営上の危機管理事項

３ 競技会運営終了時における対応事項図１ 運営フロー

#### Ⅱ 緊急時対応の基本的な考え方 ４

１ 緊急事案発生時の対応

２ 競技会中止・中断等の協議と対応

#### Ⅲ 自然災害（荒天及び地震発生等）及び火災に対する被害予防と被災時の対応 ６

１ 荒天時の対応

２ さまざまな自然災害に対する被害予防と被災時の対応例

資料１ 雷保護範囲

資料２ 東京管区地方気象台ホームページ資料３ 気象庁のナウキャストの種類

３ 火災への対応

図２ 危機管理フローＡ 組織図

図３－１　危機管理フローＢ１　荒天時対応

図３－２　危機管理フローＢ２　地震・火災発生時対応

図３－３　危機管理フローＢ３　急病者・負傷者発生時対応

#### Ⅳ 疾病等に対する予防及び対応 15

１ 競技会で配布する弁当での食中毒の予防及び対応

２ 熱中症の予防及び対応

資料４ 熱中症予防運動指針図４ 熱中症対応フロー

資料５ 熱中症予防情報サイト

３ 感染症（インフルエンザ・感染性胃腸炎等）の予防及び対応

４ その他重篤な疾病等への対応

#### Ⅴ その他想定される要対応事項 20

１ 不審者侵入時の対応

２ Ｊアラート発令時の対応

資料６ 弾道ミサイル落下時の行動について

#### Ⅵ 指導者の育成と資質向上に向けた取組 22

緊急対応報告書（様式１）

事故報告書（様式２－１・２－２） 資料７ 関係機関連絡先

第２章 運動部活動における事故防止と安全対策

**Ⅰ 危機管理の重要性** 27

１ 学校における危機管理の基本的な考え方

２ スポーツ事故の発生要因と事故防止のポイント

３ ハインリッヒの法則

４ ＰＤＣＡサイクル

**Ⅱ 危機管理の実践** 33

１ 安全確認チェックリスト

２ エマージェンシーアクションプラン(ＥＡＰ)

３ 危機管理委員会

# 第 1 章 競技会における事故防止と安全対策

#### Ⅰ 競技会1運営に当たっての注意事項

１ 緊急時に備えた事前確認事項

1. ＥＡＰ(緊急時対応計画：Emergency Action Plan)2の作成

各競技専門部は緊急事案（参加者の生命、身体もしくは財産に重大な被害が生じ、又は生じる恐れがある事態）発生時に備え、競技会会場ごとに実施本部3と責任者を明確に位置づけるとともに、会場ごとに以下ア～ウの内容等を含むＥＡＰを作成し参加者（審判員等の関係者含む） 4に周知する。

ア 避難場所・避難経路・非常口等イ 緊急連絡先・対応人員等

ウ 救急救命具（ＡＥＤ等）及び消火器の設置場所

【参考資料】

・「スポーツ事故対策マニュアル」弁護士によるスポーツ安全対策検討委員会 平成 29 年 7 月

1. 緊急時における対応体制の整備（危機管理フローの作成）

各競技専門部は様々な緊急事案に備えて、p.11 以下に示す各「危機管理フロー」を事前に準備し実施本部等に周知するとともに、事案発生時において迅速に対応できるよう体制を整えておく。

1. 競技会会場等における危険箇所の解消と設営時の安全対策

各競技専門部は、競技会会場ごとに事前に危険箇所等を確認し、解消しておく。また会場設営においては、自然災害等に対する安全対策を適切に施す。

1. 代替案の作成及び周知

計画した事業が気象状況や突発的事象等により、開催前もしくは開催中に変更される可能性がある場合、事前に代替計画案を作成し、実施本部内でその内容について共通理解を図っておく。

1. 参加者に対する安全の補償

各競技専門部は、参加者において発生しうる、あらゆる事故や怪我等への対応を事前に想定し、必要に応じて適切な任意保険に加入することや、参加者自身が自ら任意保険に加入するよう推奨するなど、安全の補償について対策を講じる。

1 以下、「競技会」とは講習会等を含むものとする。

2 いつ起こるかわからない事故やケガに対して、発生後いかに迅速に対応し医療機関に搬送できるかを事前に想定した計画書。

3 競技会会場における運営本部のこと。

4 以下、「参加者」と標記する場合は同様の意味とする。

２ 運営上の危機管理事項

1. 運営フローの周知（p.3 参照）

各競技専門部は、競技会期間中における１日単位の競技会運営の流れ（＝運営フロー）を定め、実施本部等に周知しておく。

1. 緊急時に備えたＥＡＰの周知

実施本部はＥＡＰを会場に掲示するとともに、必要に応じて参加者へ配布する。

1. 安全確認チェックリストの活用

実施本部は、各競技専門部が示す「安全対策」を踏まえ作成された「安全確認チェックリスト」を用い、競技会運営状況を確認・点検する。

1. 適切な競技会開始及び終了時刻の設定

競技会開始・終了時刻について、生徒の健康・安全面に対し十分に留意して設定する。開始・終了時刻を変更する場合には、速やかに参加者へ連絡するとともに情報をホームページに掲載するなど周知に努め、保護者による生徒の送迎等に支障を来さぬよう適切に対処する。

1. 救護本部または救護所の設置

原則として各競技会会場に救護本部または救護所を設置し、参加者に周知する。

３ 競技会運営終了時における対応事項

1. 「ヒヤリ・ハット」事例の情報収集と分析

実施本部は「安全確認チェックリスト」を用いながら「ヒヤリ・ハット」事例の情報収集と分析を行う。

1. ＰＤＣＡサイクルの活用

各競技専門部は競技会運営全体を見直し、ＰＤＣＡサイクルに基づいた評価と改善を行い、具体的な改善事項と内容を示し、次回の競技会運営に反映させる。

1. ＥＡＰ及び安全確認チェックリストの提出

各競技専門部は競技会終了後に、各競技会会場の「ＥＡＰ」及び「安全確認チェックリスト」を東京都高等学校体育連盟事務局（以下、「都高体連事務局」という）へ提出する。